



廿日市市立佐伯中学校 令和6年度

【自律】学校だより

ホームページ [http:// www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/](http://www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/)

学校教育目標:「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」

11月号 (No.19)

令和6年

11月5日 (火)

地域主催のキャリア教育

10月29日(火)に、佐伯地区にある津田市民センター、友和市民センター、玖島市民センター、あさはらまちづくり交流センターの全面協力により、進路応援企画として本校の3年生を対象としたキャリア教育が行われました。4名の講師はいずれも佐伯中学校出身で、生徒に向けて講話していただいたり、車座になって生徒の率直な質問に答えていただいたりしました。

お忙しいところを後輩たちのためにたくさん語っていただきありがとうございました。



特定非営利活動法人キッズ NPO理事長
吉本 卓生 様



社会福祉法人佐伯さつき会
ゆうわせせらぎ園 山崎 文江 様



カドヤパン 橋本 希 様



株式会社岡村工務店 岡村 大 様

【生徒の感想】

○全員に共通していることは、コミュニケーション能力だと思いました。

○人生山あり谷ありなんだなと思った。

○最近、自分の将来ですごく悩んでいたの、語り手の方が自分の将来に活かせるようなことをたくさん話してくれて、少しでも不安がなくなりました。「チャレンジするのが怖くなる方法はありませんか。」と質問したところ、「小さいことからチャレンジするといい。」とアドバイスをしてくれました。



PTA教育後援会

10月30日(水)に、広島演芸協会の会長である秋風亭てい朝様にお越しいただき、落語についてのお話や落語「転失気(てんしき)」を披露していただきました。自己紹介の中で、てい朝さんは佐伯中の卒業生(廿日市高校、広島大学)とおっしゃっていました。生徒の皆さんにとって大先輩でしたね。

落語についてのお話では、扇子や手ぬぐいの使い方を教えていただきました。ある時は、筆として、ある時は箸として、またある時は刀として、まるでそれらを手に持っているように演じつつ、さらに一人で何役かを演じる姿は、さすが日本の伝統芸だと感じました。質問タイムで、生徒が麺を上手にすすする方法を尋ねて、手ほどきを受けていましたがなかなかうまくできなかったですね。



落語が始まり、初めのうちは、皆さんの頭の中に「てんしき」という聞いたことのない言葉が入ってきて、よくわからないままとりあえず話を受け入れていました。少しずつ話が進むにつれて「てんしき」についていろんなものを想像しました。硬くて割れやすい?おみそ汁の具になる?…

そして「てんしき」が何であるかが分かってからは、いろいろなことが結びついて、おかしさが積み上げてきて大笑いでしたね。

初めて落語を聞いたという生徒がたくさんいましたが、どうだったでしょうか。後日、皆さんの感想を大先輩へお届けします。

